

## 再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：奥村 康博

事業名	一般国道375号 東広島・呉道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：広島県 呉市 阿賀中央 5丁目 至：広島県 東広島市 高屋町溝口			延長	32.8 km
<b>事業概要</b> 一般国道375号は、広島県呉市から島根県大田市までを結ぶ延長約191kmの主要幹線道路である。 東広島・呉道路は、広島県南部の中央に位置し、呉市阿賀中央5丁目と東広島市高屋町溝口を結ぶ延長32.8kmの高規格幹線道路である。事業目的は、交通混雑の緩和、交通安全の確保を行い、都市間の連携・交流の拡大、広域交通拠点との連絡強化である。					
H5年度事業化		H2年度都市計画決定		H5年度用地着手	
全体事業費	約1,965億円	事業進捗率 (H31年3月末時点)	約84%	供用済延長	32.8 km
計画交通量	14,000台/日～27,200台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (3便益) (事業全体) 1.4 (残事業) 1.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 300/3,014億円 (事業費：227/2,804億円) (維持管理費：73/210億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 489 / 4,171億円 (走行時間短縮便益：494/3,652億円) (走行経費減少便益：-18/378億円) (交通事故減少便益：13/140億円)	基準年 令和元年	
<b>感度分析の結果</b> (事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.7 (交通量±10%)      (残事業) 交通量：B/C=1.3～2.1 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.4～1.4 (事業費±10%)                      事業費：B/C=1.5～1.8 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4～1.4 (事業期間±20%)                      事業期間：B/C=1.5～1.8 (事業期間±20%)					
<b>事業の効果等</b> ①円滑なモビリティの確保 ・渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在する。 【西条線（JR中国バス）86便/日、郷原黒瀬線（広島電鉄バス）70便/日】 ・呉市から東広島駅へのアクセス向上が見込まれる。 ・呉駅から広島空港へのアクセス向上が見込まれる。 ②国土・地域ネットワークの構築 ・拠点都市間を高規格幹線道路で連絡。 ・隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡。 ③個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクトを支援。【広島中央サイエンスパーク】 ・大和ミュージアム（H30観光入込客数：約68万人）、グリーンピアせとうち（同約11万人）、呉市立美術館（同約5万人）へのアクセス向上が見込まれる。 ④安全で安心できるくらしの確保 ・東広島市から第三次救急医療機関（呉医療センター）へのアクセス向上が見込まれる。 ⑤災害への備え ・広島県緊急輸送道路ネットワーク計画に第1次緊急輸送道路として位置づけられている。 （一般国道375号 東広島・呉道路） ・第1次緊急輸送道路である一般国道375号の代替路線を形成する。 ⑥地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が期待される。 ⑦生活環境の改善・保全 ・NOx排出量の削減が期待される。 ・SPM排出量の削減が期待される。 ⑧その他プロジェクトとの関係 ・第四次呉市長期総合計画に位置づけあり。（平成23年3月、呉市） ・東広島市地域公共交通網形成計画に位置づけあり。（平成29年6月改正、東広島市）					

関係する地方公共団体等の意見

◇広島県知事の意見：対応方針については妥当である。

一般国道 375 号東広島・呉道路は、平成 27 年 3 月に暫定 2 車線にて全線開通し、空港アクセスの改善や物流の効率化、沿線地域への企業進出による雇用拡大など、多くの整備効果が現れているものの、阿賀 IC 出入口付近の先小倉交差点では流入する交通量が集中し、交通渋滞が拡大しており、本路線の整備効果を最大限に発揮させるため、阿賀 IC の立体交差化の整備が不可欠であると考えます。

引き続き、コスト縮減に努めながら、早期完成に向け、確実に整備を進めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。

審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成 26 年度に東広島・呉道路が全線暫定開通し、国道 375 号の渋滞は解消されたが、阿賀 IC が接続する先小倉交差点では渋滞が残存している。

東広島・呉道路周辺に位置する一般国道 185 号休山改良により、平成 31 年 3 月 10 日に休山トンネルが暫定 2 車線から 4 車線化となった。

平成31年3月29日に広島呉道路の暫定2車線区間（坂北IC～呉IC）の4車線化が新規事業として決定された。

事業の進捗状況、残事業の内容等

H31 年 3 月末時点で事業進捗率は 84%、用地進捗率は 100%。

現在までに「阿賀 IC～高屋 JCT・IC (L=32.8km)」間を開通（暫定 2 車線）している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き阿賀ICの立体交差化を目指し事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、事業を推進していく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。